

新規事業採択時評価結果(令和7年度新規事業化箇所)

担 当 課： 道路局 環境安全・防災課

担当課長名： 水野 宏治

事業の概要

事業名	空港・港湾等アクセス 一般県道 廿日市環状線 佐方工区	事業区分	地方道	事業主体	広島県
起終点	自：広島県廿日市市下平良 至：広島県廿日市市佐方	延長	0.8km		
事業概要 一般県道廿日市環状線は、廿日市市桜尾本町から廿日市市宮島口西に至る延長約15kmの幹線道路である。 このうち、佐方工区は、国際拠点港湾である広島港と廿日市市が新機能都市開発事業として整備を進めている新都市活力創出拠点地区の工業エリアを結ぶ延長0.8kmの道路を整備するものである。					
事業の目的、必要性 当事業の整備により、山陽自動車道宮島スマートIC及び現在整備中の新都市活力創出拠点地区と一般国道2号西広島バイパスを結び、国際拠点港湾である広島港とのアクセス向上が図られることで、所要時間が短縮され速達性、定時性の向上が期待される。					
全体事業費	約20億円	計画交通量	約16,400台／日		
事業概要図 					

関係する地方公共団体等の意見

沿線自治体の廿日市市から早期整備の要望を受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

国道2号コネクtpーキング宮島整備事業計画検討会において、当該事業を含む国道2号と宮島SICを結ぶアクセス道路の整備の必要性が言及されている。

対応方針(採択理由)

費用便益比が9.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、国際拠点港湾である広島港へのアクセス向上による物流の効率化や地域連携の強化などが見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。

以上により、本事業は令和7年度新規事業箇所として妥当である。

事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件
☒ 便益が費用を上回っている
☒ 事業実施環境が整っている

費用 便 益 分	B/C		(参考)	EIRR	総費用	18億円	総便益	165億円	(参考) 時間信頼性向上便益:－億円 CO2排出削減便益:－億円	感度分析		基準年	
		[4%]	9.1	－	37%	〔事業費: 18億円 維持管理費: 0.3億円 更新費: ー億円〕	〔走行時間短縮便益: 132億円 走行経費減少便益: 26億円 交通事故減少便益: 7.5億円〕			交通量変動	B/C＝6.6 ～ 12.2 (変動ケース:±10%)	令和6年	
	(参考)	[2%]	13.2	－						事業費変動	B/C＝8.2 ～ 10.0 (変動ケース:±10%)		
		[1%]	16.4	－						事業期間変動	B/C＝8.7 ～ 9.4 (変動ケース:±20%)		

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(()内は社会的割引率の値)

事業の 影響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	・廿日市市が新機能都市開発事業として整備を進めている新都市活力創出拠点地区の発生・集中交通による渋滞の緩和が期待される。 ・山陽自動車道宮島スマートICから一般国道433号の利用交通が、当該区間の整備により交通転換が図られ渋滞緩和が期待される。
		事故対策	－	注目すべき影響はない。
		歩行空間	○	佐方2号トンネル北側付近は現在歩道がなく、歩道を有するバイパス整備により、安全な歩行空間が確保される。 歩道幅員 現況:なし⇒整備後:2.5m
	社会全体への影響	住民生活	－	注目すべき影響はない。
		地域経済	◎	国際拠点港湾である広島港と廿日市市が新機能都市開発事業として整備を進めている新都市活力創出拠点地区の工業エリアとのアクセスの向上が図られ、輸送時間の短縮や定時性の確保が期待される。
		災害	○	山陽自動車道宮島スマートインターチェンジと国道2号西広島バイパスをつなぐことにより、道路ネットワークが強化されることで、大規模災害時の広域的な避難・救助や緊急物資の輸送等を円滑に行うことが可能となり、防災機能の向上が図られる。
		環境	－	注目すべき影響はない。
		地域社会	○	廿日市市が新機能都市開発事業として整備を進めている新都市活力創出拠点地区の観光・交流エリアとのアクセスが向上し、交流人口の増加が期待できる。

事業実施環境
沿線自治体の廿日市市から早期整備の要望を受けている。